

夏原グラント 第2回 市民環境講座 参加報告

7月18日(日) 13:30~16:30 参加者: N・K
会場: ピアザ淡海 305号室(県立県民交流センター)
講師: 脇田健一氏(龍谷大学教授 専門は社会学 夏原グラント選考委員)
テーマ: “活動を元気に続けていくためのポイント”

話を聞くだけだろうと気楽に思っていたら、違った。
会場は4~5人ずつの指定されたテーブルに着く。Kさんは別のテーブル。

脇田氏は話題提供などの話の後、今日は「ワールドカフェ」を行うと宣言!
「ワールドカフェ」とは何のこっちゃ? 初めて聞く言葉で面食らった。
「カフェのようなリラックスした雰囲気です。4~5人の会議。メンバーを入れ替えて話を続けていく。」という意味の説明。進め方は以下のとおり。

- | |
|---|
| <p>第1ラウンド: 短い自己紹介の後、
テーマについて自分の体験や感じていることなど、自由に話をする。
カフェマスター(女性はミストレス)を決める。座長のようなもの。
他の人は「旅人」として、20分で他のテーブルへ移動。</p> <p>第2ラウンド: 改めて自己紹介。
マスター(ミストレス)が自分のテーブルでの対話の内容を説明。旅人は自分のテーブルで出たアイデアなどを紹介し、対話を楽しむ。 20分</p> <p>第3ラウンド: 旅人は元のテーブルに戻り、旅で得た考えやアイデアを紹介しながら更に対話を楽しむ。
持ち寄った考えやアイデアを整理してゆく。 20分</p> <p>第4ラウンド: 各テーブル毎にマスター(ミストレス)が整理したものを発表する。 20分</p> |
|---|

私のテーブルは「ヒガンバナを復活させる堤防環境保全活動」や「ササユリの里づくり活動」「絶滅危惧種や希少種の海浜植物(ハマヒルガオ・ハマゴウ・ハマエンドウ)を守り、増やす活動」をされている団体など5名。(全部で12テーブル位?)
全員が少しずつ話すが、20分はあっという間に過ぎる。皆の声を聞き、まとめるのは難しい。マスターは最も若い方(大学院生?)が受けてくれた。

移動したテーブルで清掃登山のことを話すと、「オランダ堰堤周辺の環境を守る会」の方がおられ、“清掃登山に参加したことがある”と反応してくれた。

よく出てきたワードは、「健康」「資金」「広報」「理解」「やりがい」「喜び」「子供」。
共感する発言としては、“楽しくなければ続かないし、家族みんなが元気でないと。”
“リーダーはグイグイ引っ張るタイプよりも、世話役・裏方タイプの方がよいのでは。”
“リーダーは大事だが、呼びかけ屋さん・繋ぎ屋さんの存在が必要で重要。”
“「私」を超えた「私たち」で考える。” “無理はしないし、ノルマもなし。”など。
当会の「三方良し」に相通じるのではと思う。

いろいろなグループ、団体と知り合える良い機会だったが、慌ただしくて交流を十分深められなかったのが残念であった。

< 報告: N >